

平成24年度射水市行財政改革推進会議（第4回）議事要旨

- 1 開催日時 平成25年2月22日（金） 午前10時～午前11時20分
 - 2 開催場所 射水市役所小杉庁舎401会議室
 - 3 出席者
 - (1) 推進会議委員
荒谷委員、奥田委員、尾山委員、田中委員、中村委員、福島委員、牧田委員
 - (2) 当局
副市長
事務局：行政管理部長、行政管理部次長、財政課長、人事課長、人事課長補佐、
人事課員3名
 - 4 傍聴者等 なし
-

会議次第

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 議 題
 - (1) 平成25年度の予算（案）の概要について （資料1）
 - (2) 外部評価の予算への反映状況について （資料2）
 - (3) 平成25年度の行財政改革について （資料3）
- 4 その他
- 5 閉 会

《主な意見等》

平成25年度の予算（案）の概要について

- (会 長) 投資的経費が伸びているが、これは数年間続くのか、それとも単年度だけのものか。
- (事務局) 小・中学校の耐震化を前倒しで進めており、新湊中学校の整備もあるため、25年度がピーク、その後27年度まで若干続くと見ている。
- (会 長) その財源は合併特例債を充当するのか。その場合、実質公債費比率はそれほど上昇しないのか。
- (事務局) そうである。計画的に合併特例債を活用して、実質公債費比率が18パーセント未満の健全財政を堅持したい。なお、23年度の実質公債費比率は16.0パーセントであったが、24年度は16.1パーセントを見込んでいる。今後、27年度ぐらいがピークになるが、17パーセント台で抑えられるのではないかと思っている。
- (委 員) 個人市民税、市たばこ税、入湯税が伸びている要因は何か。
- (事務局) 個人市民税は、24年度の見積もりが極めて厳しかったこともあり、24年度の決算見込額と照らし合わせて計上したもの、市たばこ税は、法人税の減税に伴い、県たばこ税の一部を市たばこ税に移譲したことによるもの、入湯税は、新たな浴場施設が設置されたことによるものである。
- (会 長) 社会基盤整備に様々な形でお金が必要なため、行財政改革を少しでも進め、筋肉質の財政を作っていないといけないと思う。

外部評価の予算への反映状況について

- (委 員) No.1の小・中学校長会補助金とNo.3の学校給食研究会補助金について、直接執行に振り替えた額が大幅に減っている理由は。
- (事務局) 補助金の使途としていた経費を精査し、真に必要な経費のみを直接計上したことによる。
- (委 員) 「検討する」としている事業については、予算査定時に具体的な検討のスキームなどが出てきているのか。
- (事務局) 予算査定時において、例えばNo.13の高齢者労働能力活用事業費では、「本所・支所の統合を大前提とし、25年度中にそのスケジュールを明確化し、26年度予算に反映できるものは反映する」という指示を出している。

- (会 長) 事情があることは承知しているが、何らかの問題意識を持つての提言であるため、将来への見通しや道筋をしっかりと示していただきたい。
- (会 長) No.5の学校図書館活動推進費の「図書館司書の効率的な配置の検討」は難しいのか。
- (事務局) 議会からの要請もあって、1校1人体制を全市に拡大した経緯があり、すぐに取り掛かるのは難しいが、今後の検討課題としたい。
- (会 長) 図書館司書の活動については、効果が見えるよう考えてほしい。「効果・成果があり、絶対に必要な事業だから継続すればよい」ということを示していただきたい。
- (委 員) No.9のJR小杉駅サービスセンター運営費について、JRから並行在来線第三セクター会社に運営が変わる段階での運営形態は今から考えるのか。
- (事務局) 市長が「第三セクター会社で運営してほしい」と要望している。
- (副市長) 第三セクター会社からは、「現在の運営方式をそのまま引き継ぎ、その後、話し合わせていただきたい」と説明を受けている。
- (会 長) 引き続き射水市が管理することになっても、「必要機能を整理して抜本的な見直しを図る」ことが必要だと思うが、現段階で取り組むのは難しいのか。
- (副市長) 情報提供部分の今後の方針についての結論は出ていないが、小杉駅北口には観光客を対象とした情報センターのような機能がないという課題もあるため、それと併せて考えていきたい。
- (会 長) 外部評価で取り上げた項目については、引き続き、関心を持って見ていきたい。

平成25年度の行財政改革について

- (会 長) 射水市定員適正化計画は「ほぼ達成」と理解してよいのか。
- (事務局) 25年度退職者から再任用制度を導入予定としており、これまでのような推移の形では進んでいけないため、今の段階でできるだけ削減していきたい。
- (会 長) 職員定数を削減する一方、事業の規模は減っておらず、業務の質への影響が懸念されるため、「市としてやる事業」を更に精査し、現行の職員体制で十分できる、効果的に実施できる形にまで見直していただきたい。

(委 員) ふるさと納税はどれくらいあるのか。クレジットカード収納によりどれだけ増加を見込んでいるのか。導入コストは発生するのか。

(事務局) 24年度で1,200万円余りを見込んでいる。増加分については、これからの反応を期待しているところである。導入コストについては、税のクレジット収納を既の実施しており、追加コストがそれ程大きなものではないため、今回対応した。なお、寄附する側は手数料が少し掛かる。

(委 員) 職員の能力向上には、「認識力」を高めることが大事である。外に出て、全国市長会や国の省庁への派遣研修を是非進めていただきたい。職員の方々も、そういった「外との繋がり」をしっかり持っていただきたい。「人脈を作る」ことが大変大事だと思うので、その為にも出ていかないと、絶対に作れない。

(事務局) 現在、職員を富山県、自治大学校(マスターコース)、宮城県塩竈市に派遣している。全国市長会は24年度まで派遣していたが、今後また機会があれば考えていきたい。

(副市長) 民間企業への派遣研修を行う自治体が増えてきているが、民間の考え方や行動様式など、職員にとって大変勉強になると思う。ただ、「派遣する余裕がない」ということもあり、全体を見ながら考えていきたい。

(会 長) 「専門性を深める」、「視野を広げる」という意味もある。外に出て学ぶことは多いと思うので、定員削減の中で非常に厳しいのは理解できるが、「職員の資質の向上」は図っていただきたい。

(委 員) 射水市民病院の経営改善を図る手段として、コミュニティバスや路線バスのダイヤを増やす、診療科目を増やすなど、看護体制以外のアイデアはないのか。

(副市長) コミュニティバスの乗客の流れを分析すると、市民病院を基軸に動く方が多いことが分かってきた。コミュニティバスをできるだけ使っていただくことが、結果的に患者増につながるため、ルート改善に努める。なお、路線バス事業者は広域的なルートが主体であり、運行を働きかけても難しい。
他には、医師を確保するための富山大学附属病院との連携や、診療棟の建替工事によるイメージアップがある。

その他

(会 長) 今年1年で、「評価の難しさ」を感じた。「制度的な理由等による提言内容の実施の難しさ」の見極めに難しいところがあり、事業を細かく区分していけばいくほど、そういった問題が非常に大きなウェイトを占めてくる。かといって、大所高所からの意見では抽象的な議論に終始し、住民に直に行政サービスを提供している市町村レベルの行革の姿としては不十分だと思う。

- (委 員) 長年同じことをやっている事業について、「それ以外に、同じお金で効率的にできないか」を担当課で考えるきっかけを本会で作ればよい。「刺激を与えないと議論が沸き起こらない」こともあるので、1回俎上にあげてみるのもいいと思う。
- (会 長) 今までは何とかなっていても、今後の財政事情を考えるとそうは言えない。一度ゼロベースで考え直すやり方も1つかと思う。射水市では新庁舎に向け、行政システムのかなり大きな再編をしていかないといけないと思うので、それと関連させて一度見直しが必要かと思う。
- (委 員) 「他市町村がやっているからやっている」という感覚があると思う。本会のような会議では、支出の削減などのマイナス方向の議論が主だと思うが、他市町村よりも魅力ある市を創るためには、逆に「新しい事業や補助金を」という考え方があっていいと思う。「他市町村がやっている」ではなく、「独自で考える」のも必要かと思う。
- (会 長) 「他市町村に先駆けて実施する」ことがあるならば、「他市町村に先駆けて見直す」ことがあってもよいと思う。「他市町村の事例を参考にする」のは大切な視点だが、「横並び意識」があるとすれば、見直さないといけないと思う。
- (委 員) 小杉みこし祭りや越中だいもん凧まつりの補助金が減額となっているが、今までの状況を見ていると、「補助金が減額されたから」ではないと思うが、集客が減ってきている。だから、「どこかに力を入れ、どこかを下げる」などが必要ではないか。
- (会 長) 地域や観光に関連する人達による「イベントの盛り上げ方」の工夫が必要かもしれないが、もう一度、「行政としてのかかわり方、守備範囲」を改めて考えてほしい。少しずつ民間や地域に移譲していく場合に、移譲が上手くいくような支援のシステムが必要かもしれない。